

アジア・中国



# 留学体験談

先輩が語る！

所属：人文・文化学群 日本語・日本文化学類  
留学した時期・学年：2014年9月～2015年7月 4年  
留学した大学：北京大学  
留学先での専攻・所属：  
奨学金の有無・奨学金の名前：JASSO環太平洋奨学金

## 【留学について】

### Q1. 留学の目的、動機などを教えてください。

中国語の重なる向上を目指すため、中国人の友人をたくさん作り、国際交流を図るため。

### Q2. 留学先にその大学（国）を選んだ理由を教えてください。

以前、短期語学研修として、3週間ほど中国に滞在したことがあり、その経験を通じて、中国に対する強い興味がわき、本格的に中国に留学してみようと思ったから。

## 【大学について】

### Q1. 留学した大学の校風を教えてください。

学校の敷地内面積は広いが、筑波大学ほどではない。ただ、教室の移動にはやはり自転車が必要。また、北京大学は歴史ある大学でもあるため、建築物などからその大学の歴史を感じ取ることができる。都心にある大学ではあるものの、構内はわりと静かで過ごしやすい。

### Q2. 留学した大学での学生の様子を教えてください。

やはり、まじめで勉強家な学生が多い。教室の廊下や、空き室のなかで自習する学生の姿が目立った。これは、筑波大学との大きな違いのひとつであるかもしれない。だが、一方でサークル活動も盛んで、文武両道ができる学生多いのも事実。

### Q3. 留学した大学での留学サポートについて教えてください。もし利用していたら、その様子も教えてください。

留学中に何か留学生サポートを利用することはなかったが、何かしらのサポートはあった（例えば、留学中に何かトラブルに遭遇したら、〇〇に連絡する）。ただ、留学生支援については、筑波大学ほど行き届いていなかった気がする。

### Q4. 留学先で入っていたサークルなどがあれば教えてください。また、どのような活動をしていましたか。

ストリートダンスサークルと北京大学テレビ局というサークルに参加していた。ダンスサークルでは、最初は外部の先生が毎週日曜日に授業を開いてくれ、授業に参加しながら、ダンスの基礎を学んだ。授業で基礎を積んだ後は、現役の学生ダンサーと一緒に舞台に出たり、練習をしたりした。北京大学テレビ局では、主に短編ドラマの作成に携わった。俳優としてドラマに出演してみたり、ドラマの編集をしてみたりなど。ちなみに、作成されたドラマは、北京大学内にある宿舎のテレビで放映される。

## 【学習について】

### Q1. 留学先ではどのような授業を取っていましたか。授業数も覚えていたら教えてください。

秋学期（9月から1月）は対外漢語教育学院で留学生を対象とした中国語の授業をとっていた。授業内容は、読解、会話、文法、中国概況など。この学部の授業の制度は面白く、必修授業（読解、会話）のほかに、選択授業（私の場合は、中国語の文法と中国概況）があった。必修授業は授業開始前のクラス分けテストの成績に基づいて、受ける内容が自動的に決まる。選択授業については、自分のクラス分けテストの結果に基づいて、それ相応の授業を自由に選ぶことができる。

春学期（3月から7月）は中国言語文学学部で授業を受けた。こちらも、留学生とともに受けたが対外漢語教育学院とは違い、中国語や中国文化について深く知ることができた（例えば、中国語構造や音声、方言、中国の伝統的民間文学）。

授業数は、秋春合わせて7つ。

### Q2. 留学先で一番印象に残っている授業はどの授業ですか。簡単に内容も紹介してください。

秋学期に受講した中国語の読解の授業である。授業は教科書の内容にそって進めるというものだったが、まず驚いたのは教科書の内容そのものである。それは、中国の歴史や文化、経済、政治など多岐にわたるものだった。そのため、読解の学習をすると同時に、中国という国家がいったいどのような国家なのか知ることができる、まさに一石二鳥の授業であった。また、授業を担当してくださった先生も偉大な先生で、（あまり公表はしたくないが）中国共産党の党員の一人であった。そのため、先生の中国に対する理解や知識は、周りの一般的な中国人をはるかに超えており、目から鱗の中国にまつわるさまざまな話を聞かせてくれた。以上の理解から、私にとって一番印象に残っている授業は、秋学期に取った読解の授業である。

### Q3. 筑波大学での授業の様子と比較して、留学先での授業はどうでしたか。気づいた点があれば何でもよいので教えてください。

私が授業していた授業はすべて、留学生を対象とした授業であったため、筑波大学の一般学類生向けの授業と比較することはできないが、比較的印象に残ったことは、先生と学生のやりとりである。私が今まで受けてきた筑波大学の授業を見る限りでは、授業が始まると先生が講義を行い、学生はそれを聞きながら、レジュメを読んだり、メモを取ったりし、授業が終われば、先生はすぐに教室を出て、次の教室に向かうか、研究室に戻るかする。授業の内外で先生と学生がやり取りをする姿はほとんど見られない。これとは反対に、北京大学の場合は先生と学生が教科書やノートを持って、先生と学生のやり取りがわりと多くされているのがよく目に留まった。特に授業が終わった後、何人かの学生が教科書やノートを持って、先生のもとへ駆けつけ、質問をしている姿を見た時は、「何て熱心なんだ」と少し驚きを感じた。私も、何かわからないことがあった場合は先生に質問をしに行くこともあった。

Q4. 留学先での学習において、もっとも必要だったと思うアカデミックスキルは何ですか。(ライティング、スピーキング、リスニング、リーディング、リサーチスキル、クリティカルシンキング、コミュニケーション能力など)

リスニング、作文能力。

Q5. 上記に回答した内容で、留学に行く前にできるだけ身につけておけば良かったと思うスキルはありますか。

リスニングについては、自分でもどのように学習すればよいのかわからなかったので、ひとまず中国のドラマを見たりして、「中国語耳」をつくるよう心がけた。

Q6. 留学に構えて、どのような準備学習を日本で行いましたか。また、おすすめの学習法があれば教えてください。

【語学について】

HSKに挑戦することで、中国語能力を養った。また、HSK対策として、普段から単語を覚えるなどした。またこれ以外も、普段から筑波大学の中国人留学生との交流を積極的に行い、中国語に触れる機会を自ら多くつくるようにした。

【語学以外について】

特になし

Q7. 留学先での指導員、もしくは授業の担当教員とのコミュニケーションはどうでしたか。なにか気づいた点があれば教えてください。

指導員の先生とは、ひと月に一回くらいのペースで会う時間を設けるようにしていた。授業担当の先生は、かなりお話好きな先生も多かったので、たくさんコミュニケーションをとることができた。

【ライティングについて】

Q1. 留学前に、どのようなライティングの学習をしましたか。

特にしなかった。

Q2. 筑波大学でのレポート(日本語、外国語)と比較して、留学先でのレポートはどうでしたか。

筑波大学のレポートは1学期あたり1~2回だが、北京大学の場合は3~4週間に1回とその頻度が高かった気がする。それに加えて、そのほとんどが手書きで要求されていたのも特徴的だった。レポートの内容については、うまく比較できない。

**Q3. 学先のレポートで困ったことがあった時、どのように解決しましたか。**  
自分で調べ物（図書館で本を借りる、インターネットを利用する）をして解決した。

**Q4. 留学先にライティングセンター（もしくは類似する学習支援機関）はありましたか。**  
なかったと思う。

## 【生活について】

**Q1. どのような部屋に住んでいましたか。（寮、アパート、ルームシェア、ホームステイ等）**

大学内の留学生用の宿舎に住んでいた。構造は2L（ドアのついた個室が2つ、リビングにはテレビとテーブルがあった、トレイとシャワーも備わっており、かなり便利だった。）

**Q2. その部屋はどのようにして探しましたか。**  
恐らく留学先の大学が代わりに見つけてくれた。

**Q3. 部屋を決めるときの注意やアドバイスなどがあればお願いします。**

自分でアパートを探したいという場合を除けば、部屋探し（宿舎探し）は留学先の学校に任せて問題はないと思う。

**Q4. お金の管理はどのようにしていましたか。奨学金や親からの仕送りなど、どのように受け取っていましたか。（現地銀行口座の開設、日本の銀行口座から送金、国際銀行の口座開設、クレジットカードでのATM利用など）。**

銀行口座を新しく開設した。日本国内外で利用できる口座である。

**Q5. 留学先でアルバイトはしていますか。もしアルバイトをしていたら、その様子を教えてください。**

北京大学附属小学校での日本語の教授。週に一回ほど、昼に1時間。20人前後の生徒を対象に日本のアニメを通じて、簡単な日本語を教えた。中国語の先生の紹介で始めた。

**Q6. 留学先での人間関係を築くにあたって、大切だと思うことがあれば教えてください。また、日本での人間関係との差異もあればお願いします。**

とにかく積極的に人との交流を図ること。ルームメイトでも同級生でも、先生でも、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることが大切。私の場合は、一人でも多くの中国人の友人をつくることを目標としていたので、サークルに入ったり、友人の友人と知り合うなどして、人脈を広げていった。

**Q7. 大学以外でもコミュニティーに参加しましたか。もし参加していればその様子を教えてください。**

北京茨城県人会に参加した。北京のとあるイベントで偶然知り合った茨城出身の方にこの集まりを紹介され参加した。県人会の会食に2回ほど出席した。学生はおらず、ほぼ全員が北京の日経会社で働く現役の社会人の方々であった。どの方もたいへんユニークでいろいろと親切にしてくれた。

**Q8. その他、日常生活や人間関係について気づいた点があればお願いします。**

国外に留学すれば、現地の人はもちろん、他の国々の人ともたくさん出会う。そういう時に大切になってくるのは、包容力。自分とは価値観が違うからといって、相手を否定したり、けなしたりしてはいけない。相手を認める姿勢を保つことが必要。もちろん、大小さまざまではあるが、衝突することもあった。しかし、そういうときも相手を受け入れようという姿勢を忘れないようにした。

## 【治安について】

**Q1. 留学した大学、留学先の街の治安はどうでしたか。**

非常によかった。

**Q2.安全に暮らすための注意やアドバイスがあればお願いします。（危険な地域、しないほうがいい行動など）**

タクシーに乗る時は、できるだけ複数で乗るように。黒いタクシー（黒車）には乗らない。乞食にむやみに金を渡さない。パスポートは人目につかないところにしまっておく。

## 【経済面について】

Q1. 留学全体でどれくらいかかりましたか。

日本円で120万円

Q2. 留学先での滞在費はどのようにまかなっていましたか。

(奨学金、仕送り、現地でのアルバイト、留学前のアルバイトで貯金など)

奨学金、仕送り、現地でのアルバイト

Q3. 1ヶ月の支出について伺います。

項目	現地通貨	日本円
食費	1000人民元	2万円
家賃・寮費	3600人民元	7万2000円
光熱費	0人民元	0円
交通費 (通学)	0人民元	0円
交際費	500人民元	1万円
旅行費	700人民元	1万4000円
その他	200人民元	4000円
合計	6000人民元	12万円

# 【留学を目指す人へのメッセージ】

留学は人生を豊かにしてくれます。新しいものにいっぱい触れて、新しいことにたくさん挑戦して、たくさんの人に出会ってください。留学しないとわからないことが世界にはたくさんあります。ぜひ、日本を離れて、未知の世界へと足を踏み入れてみてください。そこには出会ったことのない摩訶不思議な出来事がみなさんを待っています。

